広報のあさひ

No.391
'89
6/15

ふるさとの風物詩・ぜんまい干し

（6月10日　立木の安藤重美さん方で）

どうつくる
アイディア生かそう

全国の市町村に1億円を交付して、町おこしに役立ててもらおうという「ふるさと創生」事業。町では、この活用について町民みなさんの提言を募集したところ、70件をこすアイディアが寄せられました。

今月は、先に行われた〝町民よあかしフォーラム〟のもようや提言の内容を中心に、ふるさとづくりをどうすすめるか考えてみたいと思います。

住民主役のふるさとづくり

「自ら考え、自ら実践する地域づくり事業」これが〝ふるさと創生〟の正式な事業名です。この事業は、昭和六十三年十二月に自治省より要綱が示されたもので、市町村がそれぞれの発想で独創的で個性豊かな地域づくりをすすめ、中央がそれを支援しようというのがねらいです。

国ではすでに第四次全国総合開発計画（四全総）の中で、〝ふるさと創生〟の必要性を明確にしており、地方重視の開発構想を打ち出しています。しかし現実には、国の財政再建の一環とする地方への補助率大幅カットや権限委譲の遅滞などもあり、地方圏の活性化が立ちおくれているのも事実です。そうした中で、国の補助に頼らず、地方の独自性にもとづいて知恵や力を出しあって、地場産業振興や地域づくりにとりくむ気運も全国的に盛り上がっており、ふるさとづくり運動として各地でユニークな事業がすすめられてきています。

今回の事業は、一億円という金額はともかくとして私達自身がいま住んでいるふるさとを見直し、未来へのロマンを描き、いま何が必要なのかを考えるためのきっかけづくりがねらいでもあり、その主役は私たち住民自身であることはいうまでもありません。

りんご101の神田みこし（上）と名勝、大沼の浮島

七十件こす多彩なアイディア

町では、ふるさと創生事業へのとりくみとして①町民のアイディアを募集し、町民の手によるふるさとづくり事業を推進する②町政座談会や一〇〇人討論会などを通し、町民の意識向上をはかる③朝日町の新しいイメージづくりをすすめ、二十一世紀へ個性豊かで魅力ある町づくりをめざす、の三点を基本方針としてとりくんできています。

まず、三月号の広報あさひで町民からのアイディアを募集。町政座談会でも提言をいただいたところ、今月一日までに町内の個人や団体から七十件をこすアイディアが寄せられました。この主な内容は後に掲載しているとおりですが、ジャンル別に見てみますとひめ

手づくり「ふるさと」

ふるさと創生１億円　21世紀の町づくりへ

さゆり公園づくりなど観光開発関係が最も多く二十三件、次いで文化会館建設など学習、文化振興関係が二十件、ねたきり老人のディサービス施設など福祉・衛生関係が六件、以下産業振興、人材育成、後継者対策が各五件、その他九件と多彩な内容となっています。

町ではこれらのとりまとめについて、町内の各種団体が加盟し、四十七年設立いらい地域づくりの核となってきた地域開発研究会（阿部宗一郎会長）に依託。自由な形で論議を深めてもらい、町民自身で集約する方法を経た上で町に提言として提出。それを議会などで検討しながらわが町のふるさとづくり事業としてすすめることにしています。

限られた財政規模の中でアイディアを全て実施に移すことは困難ですが、これを単に提言で終わすことのないよう、当面見直しが必要となっている二十一世紀をめざした新しい基本計画、基本構想づくりに生かしていきたいと考えています。

〝フォーラムの熱〟あすの町づくりへ

「ふるさと創生一億円」をテーマにした「町民よあかしフォーラム」が、六月三日午後八時から町農業団地センターで開催。三百二十名あまりの町民が夜を徹して〝わが町のふるさとづくり〟を語りあいました。

この日はまず、町に直接届出のあった三十四件のアイディアについて、各提案者から発表。その後、参加者全員が十六のテーブルに分かれグループ討論を行いました。各提案者とも持ち時間三分を大幅にオーバーする熱弁ぶりでアイディアをＰＲ。参加者たちも盛んな声援や拍手を送るなど、会場は終始熱気につつまれました。二部の「どこまでやれるか討論」は午前零時をこえてますますエスカレート。夜が白々と明け出す頃まで口角泡を飛ばす激論を交しました。

地域開発研究会では今後各区の公民館を通して提案内容を全戸配布。アイディア人気投票の結果を町に提言することにしていますが、この〝熱気〟をぜひ明日の町づくりへつなぎたいものです。

重文佐竹家（上）よあかしフォーラム（中）
自然観とりんごの花（下）

壮年洋上大学の開校

人材育成

- 奨学資金事業への出資による育英会の充実　（町育英会、大町／多田　積）
- スポーツ振興基金への出資による人材の育成　（町体育協会）
- 職場や家庭の〝管理職〟を対象にした壮年洋上大学の開校
（西原／西沢信雄・常盤／長岡信悦）

りんご研究開発に

産業振興

- りんご栽培の品種開発と情報機関の設置
（朝日町りんごわい化栽培研究会／菅井功会長）
- りんご博物館と農村文化の森づくり
（山形朝日農協）
- 東京へ町営の喫茶店を
（太郎一／長岡武夫）
- 農業経営、技術開発などの研究機関設置と日本一「木の実のまち」づくり
（くらしのミニ文化館／阿部宗一郎館長）

ディサービス施設を

福祉・他

- 町立病院へねたきり老人のディサービス施設併設
（長寿クラブ・民生児童委員協議会・連合婦人会）
- 在宅老人の一日保養所
（松程／阿部正義）
- 高齢者福祉特別基金設置
（常盤／長岡与四夫）
- 一億円を使わずにふるさと創生資金として貸付けて活用（古槙／清野忠市）

町政座談会での提言より

- 町営の園芸試験場を（送橋）
- 日本一の観光りんご園づくり（本町）
- 上郷ダム公園にアジサイ園整備（大谷三）
- 芽茸きの民家を生かした民宿や別荘（西町）
- 裏登山口として国立公園朝日連峰の整備（大沼）
- 鳥原へのゴンドラ建設（下芦沢）
- 朝日自然観へのゴンドラ建設（舟渡、西町）
- りんご温泉の多目的利用（西原、舟渡）
- 大谷地区に温泉センター、秋葉山頂に「旅行村観音様」の建設（大谷四）
- 町内の資源を活用した観光コース整備（大谷六）
- 最上川の観光ルート開発（舟渡）
- 結婚対策の運動資金（大滝、大暮山）
- 若者定住対策のため連合青年団へ補助（大滝）
- 小学校の分校廃止しスクールバス購入（能中）
- 児童公園の整備（大谷三）
- 町の文化財保存館建設（本町）
- 佐竹家住宅、古槙和紙など文化財の保存、資料館建設（大谷二、太郎、西町）
- 民具センター、山村留学児童の寮建設（立木）
- 大舟木分校への留学事業（大舟木）
- 春日城の復元（八ツ沼）

1億円の花嫁衣装を

後継者対策

- 配偶適格者の招請と宿泊研修施設（町工業振興協議会）
- 〝究極の美〟1億円の花嫁衣装を（八ツ沼／鈴木好一）

ひめさゆりの里づくり…

観光開発

- 町営ドライブインの建設（西町／武田四郎・鈴木正）
- 北のハートピアのテープと自然観の写真を使ったＰＲ戦略（四ノ沢／石塚千代太）
- 和合「神山」へのキノコ園、最上川の魚類保護（大隅／鈴木重郎）
- 町営のりんご加工販売事業と「りんごの町」への家族旅行プラン（平／佐藤与右エ門）
- 〝空気みこし〟による「町民みこし祭り」で町おこし（若い衆、産業シンポジウム実行委員会）
- 「最上川浄化対策基金」設立と清流運動の展開（最上川第一漁協）
- ひめさゆりの咲く花園公園（立木／松田ミサヲ）
- 「いぼ地蔵様」の整備（助ノ巻／柴田喜久雄）
- 温泉利用の宿泊施設や熱帯植物園づくり（下芦沢／大滝信子）
- 桜並木とひめさゆりの里づくり（常盤／阿部隆夫）

- 館山城の復元（下芦沢）
- 公民館建設（送橋）
- 秋葉山の開発（大谷六）
- 公衆トイレ設置（西原）
- 合併浄化槽の普及（四ノ沢、送橋）
- 山形市への町営駐車場や物産店（西町）
- 公営ギャンブル設置（舟渡）
- 住宅団地造成（〃）
- タレントの養成費（送橋）
- 各家庭や部落へ配分（大滝、中沢、今平、長沼、送橋、高田）
- 一億円をガラスケースに展示（下芦沢）
- 一時預金し検討（本町）

文化の拠点づくり

学習・文化

- りんごをデザインした町民文化会館を（常盤／阿部康子）
- 客席や歴史資料展示場を備えた文化会館建設（西町／鈴木三郎、八ツ沼／佐竹博、本町／今野優）
- 地域文化の拠点、文化コミュニティセンター（松程／阿部美知）
- 半円型の町民交流館、文化館の建設（沼向／鈴木久夫）
- 大沼や町内の民族資料を保存する郷土資料館（町区長会、大谷一／榊寿太）
- 町の木ブナを使ったふるさと会館の建設（真中／遠藤清蔵）
- 幼児や老人のための公園整備（大谷一／白田かよ）

町政スポット

「朝日自然観」「合併浄化槽」「ふるさと創生」テーマに

町政座談会　目立った婦人参加

各会場とも活発な意見や質問が出された（能中で）

町内全集落を対象にした町政座談会が、今年も五月十日から四十七会場で開かれました。

今年のテーマは「朝日自然観」、「合併処理浄化槽」そして「ふるさと創生」の三つ。いずれも町にとって当面する大きな課題だけに、各会場とも壮年層を中心に婦人会や若妻会、若衆会のメンバーなどが多数参加。全戸の五四%に当る一、三五一人の参加者となりました。

「朝日自然観」に関するものとしては、経営の見通しや誘客、宣伝の方法、施設設備の利用などについて意見や質問が集中。「花いっぱい運動など町民あげてのまごころサービスを」「スノーモビルやモトクロスで若者の誘客を」「電話のオルゴールで自然観をPRしてはどうか」「案内板をもっと多く」といった積極的な意見や貴重なアイディアなどが多く出されました。

また、私たちの暮らしにもっとも身近な合併処理浄化槽については、下排水処理計画の内容や補助制度のあり方、農業用水への影響、設置後の維持管理の問題などに質問が寄せられ、とくに婦人層の関心の高さが伺えました。主な要望としては「無利子の融資制度を」「浄化槽の前に側溝整備を早く」「全戸が早く設置できるよう補助内容を検討して」といった内容の発言が目立ちました。

「ふるさと創生」についての関心も高く、「ミニ新幹線の開通とあわせ、山形市に町営の駐車場を」「ひめさゆりのバイオ栽培に」「ダム公園にアジサイ園を」「りんご振興に町営の園芸試験場を」といったアイディアも多く寄せられています。

町では担当課ごとに現場の調査や県など関係方面との協議を経て、今月十二日に内部の総括検討会議を開催。要望のあった中で緊急に対処すべき事項は六月補正で対応するなど具体的な対策をまとめた上、各区長さんを通じて報告することにしています。

町のアンテナ

固定観念を打破し時代の流れ先どり

"アンテナをより高く"と運営委員会

東京連絡事務所運営委員会開く

昭和五十六年十月開所いらい八年目。町のアンテナとして常に首都圏に情報を発信しながら町に提供している東京連絡事務所の運営委員会が五月二十日、役場会議室で開かれました。

昨年度は、りんご一〇一記念事業に伴う神田みこしの招へいや山村留学の推進窓口、りんごキャンペーンの展開など町と都市との「交流」に重点を置いて活動。朝日自然観への誘客宣伝やホテル研修生の派遣などにも大きな戦力となって事業を展開しています。

今年度は、いよいよ自然観のオープンへ向けての本格的な誘客対策の最前線として営業活動を推進。さらには、首都圏在住の朝日町出身者によって新たに発足する新生「あさひまち会」の活動とタイアップしながら、新しい発想で時代の流れ（トレンド）を直視した事業にとりくむことにしています。

Asahi自然観

「ホテル自然観」で上棟式

コテージ村とキャンプ場は ひと足先に7月1日オープン

十月五日のオープンまであと百十二日。急ピッチで施設整備が進められている「朝日自然観」で六月十日、建設中の「ホテル自然観」の上棟式が行われました。

同施設は昨年八月に着工したもので、現在、その本体工事の約七割が完了。八月末の完成に向け、壁面工事や機械設備などの取り付け工事が行われています。

式ではまず神事が執り行われ、出席した熊坂助役をはじめ町議会議員や「自然観」の職員ら約四十人が、玉串を捧げて順調な完成と工事の安全を祈願。そのあと工事関係者の案内で、間取りなどが出来上がった施設内部を見て回りました。

また、先の町政座談会でもお知らせしたとおり、六月一日からホテルも含めた利用予約の受付が始まり、すでに完成した十七棟のコテージとキャンプ場は、夏休みの行楽シーズンを前に七月一日から利用を開始します。まだ飲食物の提供はできませんが、皆様のご利用をお待ちしています。

7月1日にオープンするコテージ村は子供たちに大人気

地域経営のあり方学ぶ

トップマネージメントセミナー

日本経済の実態、農業問題など厳しい社会情勢を適確に捉え、活力ある地域づくりを自らの手で行うために学習しようと、さる六月六日、第二回トップマネージメントセミナーが開催されました。

このセミナーは商工会が主催したもので、町内の商工業経営者、各種機関の代表、町議会議員など五十九名が参加。藤部日銀山形事務所長、田中日経新聞山形支局長の基調講演に続き、阿部宗一郎朝日相扶社長がコーディネーターとなり、第三者の目から見た山形県や朝日町の問題点などについて意見交換。特に「朝日町も含め山形県は情報を流すのを嫌う傾向にある、PR不足と言われるがそれ以前の問題だ。地域という枠の中で満足しているのではダメだ」という手きびしい指摘もあり、地域の活性化を目ざす上で参加者の攻めの取りくみを促しました。

情報の発信基地をめざして学習

生活に欠かせないクリーンカーを購入

年金積立金還元融資で し尿収集車1台を購入

国民年金の積立金は町づくりに大いに役立っています。昭和63年度には、西村山広域行政事務組合の寒河江地区クリーンセンターで、この環元融資670万円をうけて「し尿収集車」（5.4kl）を1台購入。作業能率が大幅にアップするなど、クリーンな町づくりに一役買っています。

5月23日放映のNHKスペシャルについて

経過報告とご協力のお願い

朝日町長　小林富蔵

さまざまな反響がよせられたテレビ放映

去る五月二十三日、夜八時より、NHK総合テレビにおいて朝日町の様子が放映になりましたが、その内容において、一方的で極端な点があり、多くの町民からもご批判の声が寄せられたところです。

この取材に当たって、NHK側から『現在の国の過疎対策等においていろんな問題があり、地方自治体の財政においても全国的な格差が広がっている。そこで地方の立場から問題を提起し、本当に効果のある施策がすすめられるよう訴えたい』という申し出があり、町としては「町ぐるみでがんばっている様子が放映なれば、町の宣伝にもなる」という考えから、その取材に協力し、放映日時が記載されたハガキを通じて、皆様から東京などの知人の方に番組紹介をお願いしたところです。

ところが、放映された番組を見ると、「一方的で極端な点が多すぎ、問題点の提起だけが強調されて、町民みんなでがんばっている様子の紹介がほとんどない」という内容になり、皆様のご期待を裏切り、ご心配をおかけする結果となりました。

町では五月二十四日、熊坂助役が上京した際に東京のNHK本社に出向き「地元の事を考えない、あまりにも極端な内容であった」ことを抗議しております。その結果「家族旅行村の開村に向けてがんばっている地元の意向も汲み、もっと別の角度から町の様子を〝東北アワー〟の番組で取り上げる」ことを確約してもらいました。

町の起債（借金）については、これまでも申し上げてきましたとおり、過疎債・辺地債の増額確保により、公債比率も一七・七％であり、二十％を越える全国三百余の団体に比較し、まだ若干のゆとりのあるものであり、これからも一層健全財政の維持に努力する所存です。

町民の皆様におかれましても、家族旅行村が大きく発展し町づくりが順調に進展しますよう、今後ともなお一層のご協力をお願いいたします。

保健婦だより

子どものムシ歯は〝無し歯〟の元です

―健康な歯で元気印（じるし）―

6月4日から10日まで「歯の衛生週間」。もちろん、この期間だけ歯の健康に心がけるということではいけませんが、こういった機会にもう一度、歯と私たちの生活のかかわりを考えてみたいものです。

大人になってから「歯を大切にすればよかった」と後悔する人が多いようですが、歯がなくなってからではもう遅いのです。健康な歯をもった子どもたちを育てるには、妊娠中・乳児・幼児などの時期から気をつけなければなりません。

ところが、朝日町の子どもたちの歯は、乳幼児からムシ歯にかかっている割合が高く、昭和六十三年度の歯科検診の結果では、一才六か月児で二七・一％、二才児では四一・四％、三才児では、八八・九％と、ムシ歯保有率がいずれも県内で上位を占めています。

ここ数年、子どものムシ歯予防のために町でも力を入れているのですが、なかなか減少しません。かわいい我が子をムシ歯から守りたいと誰もが思っているのですが、ムシ歯予防を実践し、生活習慣として定着させることは本当に難しいものです。

長沼の松田和法ちゃんは今回、町の三才児の歯科検診で、ムシ歯が一本もなく大変きれいな歯だと歯科医の石見先生よりほめられました。そこで、和法ちゃんのお母さん、千明さんに日頃注意していることを話していただきました。

「和法にムシ歯がないといわれ家族みんなで喜んで

平成四年、山形がぐ〜んと近づきます

県道改修期成同盟会総会

―整備促進と早期完成めざす―

県道山形朝日線・山形白鷹線・白滝宮宿線改修期成同盟会（会長・山形市長）の総会が六月七日、中央公民館で開かれました。総会には一市三町の関係者ら約六十人が出席。本年度の事業計画などを決めました。

特にその中で、町発展のカギをにぎるのは山形朝日線。今年も送橋、大蕨両工区は合わせて十一億円を投じて改良が進められます。現在は仮設道路ながら送橋から大蕨までつながり、路線唯一の鳥海トンネルも貫通し工事は順調。平成四年までには、山辺町の杉下地区を除き山越えの部分はすべてが完了する予定です。

また白滝宮宿線についても、太郎工区が今年で完了し、立木工区も平成三年の完了をめざしています。

これら二路線の改良促進は、「朝日自然観」の誘客にも大きく影響することから、来賓の県関係者に一日も早い完成を要望して総会は閉会しました。

整備促進へ運動の盛り上げを誓いあう

最優秀賞の宮宿自動車班

宮宿自動車班が見事な"操法"披露

消火活動の向上めざす 消防ポンプ操法審査会

消防団員の士気高揚と消火技術の向上をめざして、小隊訓練と消防ポンプの操法審査会が五月十四日、和合の果実流通センター広場で行われました。

同審査会には、十七部五十六の班から抽選で自動車班四チーム、積載車班五チーム、小型班十八チームが出場。朝早くから、また日曜や夜間を利用して訓練に励んできた各部の、チームプレーの成果を披露。審査の結果、今年の最優秀チーム賞は一分団一部、宮宿の自動車班に輝きました。

成績は次のとおりです。

■**自動車／金賞**一の一（宮宿）・一の三（和合）**銅賞**二の四（常盤）■**積載車／金賞**一の一（宮宿）**銀賞**一の四（送橋）・二の一（太郎）**銅賞**一の六（上郷）・三の二（大暮山）■**小型／金賞**二の四（夏草班）・二の一（太郎班）・一の三（和合班）**銀賞**二の六（今平班）・一の一（助ノ巻班）・一の二（新宿班）

松田千明さんと元気な和法ちゃん

います。私が勤めているため、日中おばあちゃんに面倒をみてもらっていますが、特におやつに気をくばってくれるようお願いしています。甘いお菓子やジュース類はさけ、おにぎりや牛乳・果物、せんべいなど、なるべく甘みの少ないものを与えてもらっています。

一番大変なのは歯みがきです。夜、眠い目をこすりながら、時には叱ったりしながらも毎晩歯みがきをさせています。この頃は『歯みがきは？』と言うと一人でするようになりましたが、まだ小さいのできれいにみがけません。そこで、必ず大人が〝しあげみがき〟をしてやっています。

これからだんだん大きくなると当然、与えられたおやつだけで満足するわけがないので、今の時期からしっかり歯みがきなどの習慣づけをしなければと思っています。」

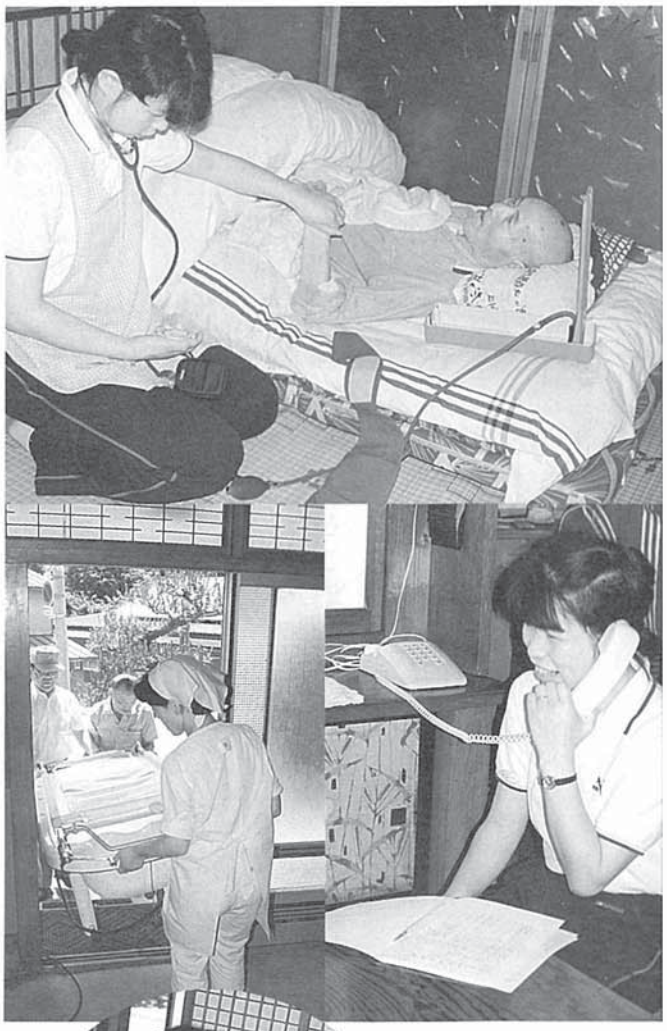
やっぱり、ムシ歯予防には大人の愛情と根気が大切なようです。町の将来を担う子どもたちの健康のために、町民みんなでムシ歯予防に取り組みましょう。

さっぱりした、んねが？
ええ気分じゃー。

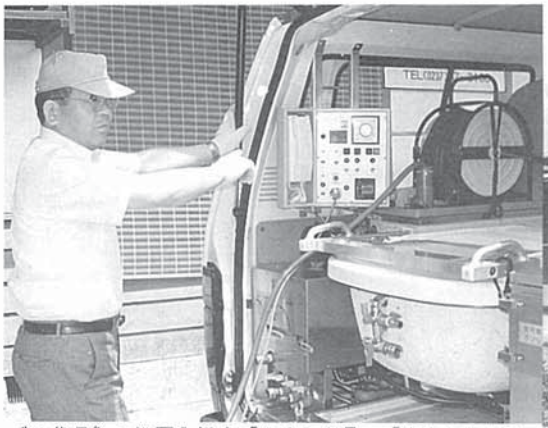
巡回入浴車サービス
ホームヘルパー
保健婦活動

おフロって、みんな大好きですよネ。
大変な時もあるけど、喜びがじかに
伝わってくるんです。

カメラあんぐる



入浴前は、まず健康状態をチェック。今日は体温も血圧も正常値。さらに、主治医に連絡をとって、入浴の許可をとるのは保健婦（佐竹文子さん）の役目。また、おフロの温度にも、細心の注意をはらって、ようやく準備完了だ。



〝4代目〟の巡回入浴車「やすらぎ号」。「庭先に車が入れない時は、ホースをいっぱいのばして、この電話で連絡するんです」と語る運転業務の小林さん。

洗髪も特製の帽子をつけて。頭から足の先まで、きれいさっぱり。

峯太郎さんは今回で2度目。会話を交わしながらのひさしぶりのおフロに顔もなごむ。

入浴後、さっぱりとした峯太郎さんの健康状態を気づかいながら、世間話をするのもヘルパー(村山美恵さん)の大事な活動

峯太郎さんの入浴を終え、茶の間でくつろぐみなさん。一番、ほっとする時間だ。介護の方法などの話題とともに、料理の話や旅行村の話題が自然ととび出す。

高齢化率が県内一位の朝日町。その中で、ねたきりの状態にあるお年寄りの方は現在、四十三人。町ではホームヘルパー（三人）や保健婦（四人）を派遣して健康相談などに応じ、また介護者の要望により紙オムツや特殊ベットを貸与しています。さらに西村山広域行政の巡回入浴サービス車を月に一度派遣して、家庭ではなかなか大変な入浴のお手伝いをしています。現在、町内での利用者は十二人。大滝の柴田峯太郎さん(九十一歳)もそのおひとり。今回は、柴田さん宅（世帯主・柴田峯一さん）のご協力をいただき、巡回入浴車サービスを中心とした、町のホームヘルパーと保健婦の〝二人三脚〟の活動をカメラでレポートします。

昔の旅、あれこれ
―江戸時代の道中記から―

今年は、『奥の細道』紀行三百周年に当たっています。芭蕉は「古人の跡を求めず、古人の求めたる所を求めよ」という信念の旅人でした。昔の人が遠くへ旅立ちする時は、生死にかかわる苦難も覚悟の上で、水盃をとりかわすこともあったとか。私たちの住むこの地方では、伊勢（三重県）や金毘羅（香川県）参宮の旅へ、一生に一度はぜひ行ってみたいものだと、みんなのあこがれに似た願望があったように思います。

残された旅の記録

昔の人がいつ、どこへ、どのような旅をしたか、大変興味のあることです。当時の旅日記でもあればと思い、調べてみました。

一つは、鈴木佐七家文書（町史・資料第4号）の中にありました。『往来手形』という一枚の文書がそれで、和合の人、菅井専吉が諸国巡礼の旅に出立する際に、だんな寺の住職から書きしたためてもらった通行手形にまぎれもありません。年号は安政三年（一八五六年）とあり、同じく安政三年、『奉納経』と題した二冊の綴込と一緒に保管されていました。

綴込の方は諸国の寺社および霊場の朱印が日付、場所とともに記されていました。これによれば、

陰暦二月十七日　置賜・亀岡文珠寺参詣
三月　十三日　鹿島
四月　　二日　諏訪
　　十四日　伊勢
　　二十六日　熊野
五月　　四日　高野山
　　七日　河内
　　十日　和泉
　　十三日　京都
　　十六日　近江
　　二十八日
　四国八十八か所霊場着
六月二十一日　讃岐
七月　　二日　阿波
　　十八日　淡路
　　三十日　再び近江
八月　十四日　善光寺

と回り回って、帰りは越後を通り、足掛け七か月の旅でありました。

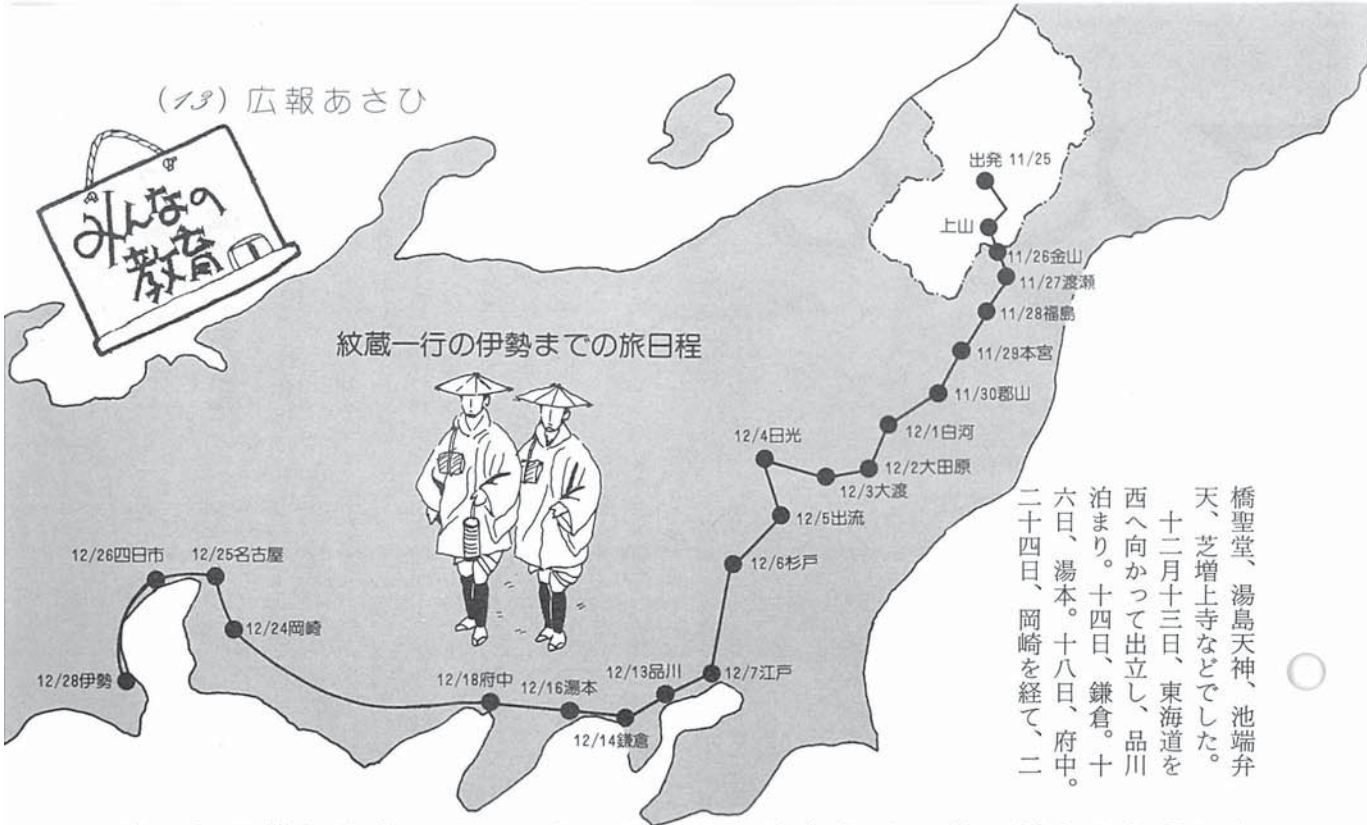
羽州村山郡から江戸まで

さて、天保十二年霜月二十五日、五百川を出た紋蔵一行は、まず上ノ山に泊まりました。はたご銭百六十文。二十六日、出羽・奥州境にある金山泊まり、はたご銭百三十文。二十七日、渡瀬。二十八日、福島泊まり、米沢屋源八は、はたご銭百六十文。二十九日、二本松、家数三千ばかり、町並一里続き大繁盛、同日、本宮泊まり。六日め、郡山。七日め（極月一日か）、川あり舟銭五文、白河に着く、十五万石の御城下、はたご銭百六十文。八日め、大田原。九日め、絹川を渡る、橋銭五文、大渡に泊まる。十日め、今市を過ぎると道の両側に奇杉がつらなる。日光泊りの十一日め、朝、東照宮へ参る、日本一のお山と拝見した。一人より十人まで金一分（四分の一両）、ほかに祢代。十一日め、出流。十二日め、富士山が見えた。古河を過ぎ、渡し舟二十四文、ほかに酒手（心づけ）、幸手。関所あり、笠を取って通るだけでかまわない。杉戸泊まり。十三日め（十二月七日）、いよいよ江戸馬喰町に着きました。

これまでに歩いた道のりがおよそ百里あったとすれば、一日平均約八里（三十二㌔）歩いたことになります。また、天保年代の物価を考える時、米一升約五十二文、酒一升は九十二文ぐらいだったようです。

東海道を西へ

紋蔵一行は江戸に五日間滞在し見物をしました。両国橋、浅草観音、亀戸天神、五百羅かん、深川八幡宮、神田明神、大名屋敷、神田



橋聖堂、湯島天神、池端弁天、芝増上寺などでした。

十二月十三日、東海道を西へ向かって出立し、品川泊まり。十四日、鎌倉。十六日、湯本。十八日、府中。二十四日、岡崎を経て、二十五日、名古屋。二十六日、四日市を通り、追分にて、伊勢街道を南へ向かいました。そして伊勢に着いたのは二十八日。江戸を出てから十六日めという、まずは順調な旅程と思われます。

さすが東海道は全国一。整備が行き届いていたようです。「家康は、その道幅を五間（約九メートル十センチ）と定めた。路面を平らにして砂利・土で舗装する。一里塚を設け、両側に松を植え並木とした。慶長十八年に来日した英人のジョン・セーリスは、日本の道路はどの国よりも立派であると記している。」（笹沢左保著・驚愕より）

往来手形のこと

話かわって、専吉が持ち歩いた『往来手形』の中には何と書かれてあったのでしょう。和合・宗覚院の住職の見事な手跡で、およそこんなふうに記されていました。

「この者は、代々真言宗当山の壇家であるが、この度、伊勢及び金毘羅参りの旅に出かけたいとのこと。各地関所にありましては格別のお情けをもってお通しください。もしも道中で日が暮れ宿がない時は、どこかに一晩泊めてやって下さい。またこの者が病死した場合にはお引き取りの上、書面にてお知らせ下さるようお願い申し上げます」。

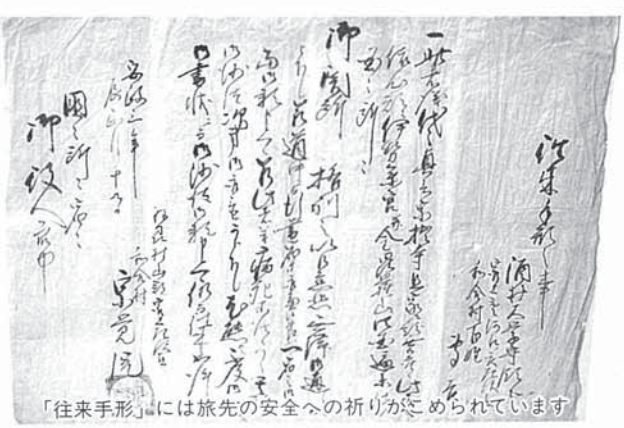
旅は文化のかけ橋

諸国巡礼の旅に出た古人の話では、「路銀として大枚七十五両（現在の金額でおよそ三百万円）持って出かけました。旅先では思わぬ出費があるもの。帰郷するまでかなりの日数が残っているというのに、その金は使い果たしてしまいました。それで心ならずも、道中お恵みを受けながらようやく帰った。」そうです。

旅は難儀なもの、と思われていたに違いなかったでしょう。しかし、楽しいことも時々起こったに違いありません。また、旅先では見聞きするもの皆珍しく、期待と感動の日々だったのではないでしょうか。

江戸時代の文化は、元禄（一七〇〇年）の頃、もはや絢爛と花開き、日本文化はほとんど完成の域に達したといっても過言ではなく、『旅は文化のかけ橋』となって、中央の風俗習慣が遠く地方の隅々まで伝えられて行きました。

（教育広報委員長　菅井進）


「往来手形」には旅先の安全への祈りが込められています

ひろば

「ヌカガ」も体験しました

大舟木分校で田植え

西五百川小学校大舟木分校で五月二十五日、『田植え』の体験学習が行われました。田んぼともち米の苗は父兄からの提供です。

生徒十一名は父兄や先生の指導でさっそく田植え開始。田んぼに素足で入ったのは初めてという子供がほとんどで、苗を二十本ぐらいまとめて植える子、植えないでそのまま置いてゆく子、中には大人顔負けの上手な子など様々、約一時間で終了しました。また、田植えの最中、思わぬ敵「ヌカガ」に刺され「かゆいかゆい」の連発でした。

今後は除草、水管理、そして秋には稲刈りを行い、その米で餅をついてお祝いをする計画とのこと。実りの秋が楽しみですね。

11人が仲良く並んで田植えをしました。

「雨にも負けずがんばったよ」

宮宿小でも田植え

五月二十六日、宮宿小学校でも雨降りの中、五年生（46人）が田植えに初挑戦。その模様を、子供の感想文のひとコマで紹介します。

「おじさんがもちかたをおしえてくれました。『人さし指と中指の間さはさんで、いねといねの間さ入って軽くさすなだ』『こう』『んだんだ』なんとなくわかりました」　**西沢新地くん**

「新地君が『あったかぁい』といいました。わたしは、びっくりしました。海みたいな田んぼに入って、あったかいはずはないからです。ほかの人たちも『あったかい、ほんて』といっていました。田んぼの中があついのなら入ってみたくなりました」　**海野さつきさん**

「お母さんに田植えのことを話しました。『まよってだうちに、おわって、すねっけは』『んじゃ、おうちの田植えがまだなので、がんばろうと思います」　**渡辺仁美さん**

雨の中でも、田んぼは「あったか～い」

うちのおばあちゃん

本町
鈴木拓郎くん（宮宿小2年）
弟　**聡くん**（5歳）
おばあちゃん
鈴木トヨさん（57歳）

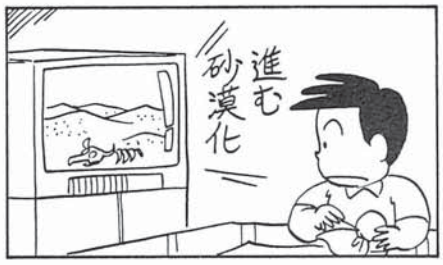
ぼくとさとしは、おばあちゃんがすきです。おばあちゃんは、なんでもかってくれます。チョコもスナックも、ガムもかってくれます。ぼくは、おばあちゃんが大すきです。

たまに、おばあちゃんが「花に水かけてけろ」といいます。ぼくは「はーい」とおてつだいします。ジョロに水をくんでシャーシャーとかけます。「さとしもてつだいしてくれねが」とおばあちゃんがいうと、「んだがー」といって、さとしもジョロに水をくんでシャーシャーとかけます。

おばあちゃんのとくいなりょうりは、カレーです。とてもおいしいです。

隣のリンゴ家族

堀ひろき (6)



町民の

ひとことトーク

若月清五郎さん
（西舟渡　67歳）

貴重な〝記憶〟がうすれてゆく 身近な歴史を掘り起こそう

町資料館建設の話題も出ていますが、営々と築き上げてきた先祖の足跡をたどり、最上川とともに生きてきた村人の暮らしを掘り起こし、後継者のために村の歴史を残そうと、区史編さん委員会を発足。その委員長をおおせつかりました。

わが区は、昭和五年に三十七戸を焼く大火に見舞われ、それだけに古文書も焼失して少なく、まず資料集めが大変な状況です。しかし、大先輩たちの健在なうちにそれらをまとめることが我々の務めと、協力を呼びかけ取り組んでいます。

18日は父の日

西船渡の峯田真人くん（西五百川小３年）から、「父の日」を前に「お父さん」（峯田英司さん）を作文で紹介していただきました。

お父さんのしごと

西五百川小３年　峯田真人

「もしもし、えいじさんですか。うちのじゅうたん、しいてください。」

「いいですよ、いつですか。」

しごとは、電話できます。ぼくのお父さんはゆかとかじゅうたんをしくしごとをしているのです。

お父さんは、しごとに行く時、いつも「真人、行ってくっぞ。」と言ってでかけます。ぼくは、「お父さん、今日どごさ行ぐなだ。」と行き先をききます。後でおばあちゃんが、「今日、お前のお父さんどさ行ったんだ。」とぼくにきくことがあるので教えるためです。

お父さんはしごとでとまる時もあります。時々、夜おそい日は、しごとをした家でごちそうになります。

家でごはんを食べるときには、つかれたみたいなので、ぼくがビールをついであげます。

「おっとっとっと。あどいいは。」

いっぱいつぐとそういいます。

日曜日に、お父さんがあまりおそいのでおこしに行こうとしたら、

「きのう、おっそぐまでしごとしてけったんだがらおごすな。」

と、お母さんが言うので、おこさないで、ねかせてあげました。

管理棟の新築工事始まる

アイジー工業㈱ 朝日町工場

西船渡地区に進出するアイジー工業株式会社（石川堯代表取締役社長・東根市本社・資本金一億五千万円）朝日工場の、管理棟新築工事の起工式が五月十日、同敷地内で行われました。

式には町から熊坂助役や地元、西船渡地区の役員ら約三十人が出席。はじめに神事が執り行われ、石川社長の鍬入れの後、関係者らが玉串を捧げて工事の早期完成と安全を祈願しました。

同工場は、地元への若者定着をはかる上で、一日も早い操業が期待されています。

鍬入れの儀を行う石川社長と整備中の朝日町工場

門間正治氏に県知事表彰

―地域医療の向上に貢献―

今はゴルフが楽しみと語る門間正治医師

六月六日に村山市で開かれた第三十三回山形県公衆衛生大会の席上、大町の門間正治医師（74歳）が県知事表彰を受賞しました。

同氏は昭和二十七年、無医村であった旧大谷村の初代診療所長として赴任。その後、昭和三十一年に現在の門間医院を開業し、以来、現在も町立学校の校医や各種検診の嘱託医、健康教室の講師を努めるなど、多忙な診療活動の中、地域医療と保健衛生の向上に尽力されているものです。

受賞の喜びの中、同氏は「愛車の自動二輪で山添いの部落に往診した昔がなつかしい」と話していました。

花いっぱい運動の輪を広げよう

各地の〝花だより〟お待ちしてま～す

全町的な花いっぱい運動の機運が盛り上がる中、町内各地から〝花だより〟が寄せられています。

株式会社大東建設の互助会の皆さんは、今年も会の奉仕作業として五月十七日、早朝出社して会社前の県道の路肩や緑地帯にマリーゴールドなどの植え付け作業を行いました。

五月二十五日、宮宿中央通り商業振興会の皆さんは朝仕事で、サルビアなどの花をフラワーポットに移しかえる作業を行い、出勤時間にはもう、道端に並んだポットの花が道行く人たちに朝のごあいさつ。

また同じ日、秋葉山公園では今年も、北部公民館の高齢者教室「睦大学」の奉仕活動として、受講生ら百二十人が総出で、各家から持ち寄った花の苗を半日作業で植え付けました。

秋葉山公園での植えつけ作業

「花の香ただよう宮宿中央通りに」と作業に励む振興会の皆さん

職場のニューフェイスが勢ぞろい

新人類パワーでチャレンジ！

地元就職、今年は13人

新規学卒就職者を励ます

町と商工会が共催する、恒例の新規学卒就職者激励会が六月五日、白倉で開かれました。今年の就職者は男子十四人、女子三人の計十七人。その中には遠く石巻市から建具職人の技術を磨くためにやってきた若者など、合わせて四人の町外出身者が含まれています。

当日は、はじめに「朝日自然観」の施設を見学。その後「ロッジしらくら」を会場に激励会が行われ、熊坂助役らから激励の言葉と記念品が贈られました。

これに対し、殖産銀行に務める村山出身の山口秀敏さんが「新人類世代として失敗を恐れず、明るく元気に何事にも積極的に挑戦していきたい」と参加者を代表し抱負を述べました。

その後、町工業振興協議会の阿部宗一郎会長を講師に講話の時間。タイムカードによる生活のけじめにふれ、「十六時間を生活者として豊かに過ごすために、八時間は会社人間でありたい」と呼びかけました。

コテージの屋根裏部屋は大人気

あさひまちのことたくさん知ったよ

小学3年生 町内めぐり

町内小学３年生(128人)の子供たちは、「わたしたちの朝日町」という社会科の副読本で町の様子や暮らしについて勉強しています。そこで、実際の様子を調べるために、地区ごとに６月１日と２日の両日、スクールバスに乗って町内めぐりを行いました。

コースは工場や役場、和合平のりんご園や上郷ダム、大沼の浮島など各地区独自に設定。また、今年から「朝日自然観」も新たにコースに加わり、子供たちはそれぞれの見学先で係員に活発に質問を投げかけていました。

若妻会

初のバザー大盛況

「仮面ノリダー」も一役

五月二十八日の日曜日、町連合若妻会（斎藤孝子会長）が主催する初のチャリーティーバザーが中央公民館大ホールで開かれました。

会場には、会員らが持ち寄った衣服類や瀬戸ものなどの日用品がテーブルに所せましと並べられ、午前十時の〝開店〟と同時に子供連れのおかあさんなど大勢のお客様がつめかけ大盛況。また、会場の子供たちのために劇団「りんご村から」も協力。座員らが正義の味方「仮面ノリダー」や悪役に扮して登場、子供たちの夢を演じました。

人気者の仮面ノリダー

初のバザーは大好評

自己のベストに挑戦！

さわやかな風を追う

小学校陸上競技大会

さつき晴れに恵まれた五月三十日、小学校陸上競技大会が、新装なった西五百川小学校グラウンドで開催されました。今大会には複式学級の五年生四十人と六年生百四十八人が参加。走り幅とびで大会新記録が生まれるなど、さわやかな風を追って体力の限界に挑みました。

各種目の一位記録者は次の通りです。

■100㍍走　▽女子／安達真由美（宮宿）15秒4　▽男子／長岡友久（大暮山）15秒0

■70㍍ハードル　▽女子／阿部有希子（西五百川）12秒8　▽男子／長岡輝（上郷）12秒0

■走り幅とび　▽女子／遠藤ひとみ（大谷）3㍍74　▽男子／鈴木卓巳（西五百川）4㍍29＝大会新

■持久走　▽女子（800㍍）、安達真由美（宮宿）2分52秒2　▽男子（1、000㍍）／長岡友久（大暮山）3分26秒4

■400㍍リレー　▽女子／宮宿Aチーム1分3秒8　▽男子／大谷Aチーム1分1秒5

ふるさと行きの観光バスガイドが夢

志藤　美枝子さん

《東京都荒川区南千住6―41―16》

＊プロフィール

●昭和41年、栗木沢生まれ。（父親　志藤正雄さん）

●昭和60年、県立左沢高校（朝日分校）を卒業後、ニュー東京観光バス㈱に入社。現在、観光バスガイドとして全国を回る。

●趣味／カラオケ、スポーツ、ドライブ

今こちら東京は、目に鮮やかな銀杏並木が印象的です。「目に青葉・山ほととぎす・初鰹」こんな言葉が大変ぴったりの毎日です。高校を卒業しまして、すぐ東京に就職し、早いもので五度目の春を迎えたことになります。

仕事がサービス業ですので、〝十人十色〟さまざまな人がいますし、いろいろな地方の方と出合います。偶然に同じ山形の方と巡り合ったりすると、ついついなつかしい言葉にもどってしまいます。よくお客さんに「ガイドさんは山形のどこ出身ですか？」と質問を受けます。その時、待ってました！とばかりに胸を張り、「りんごとワインの里の朝日町です」と笑顔で答えるようにしているんです。

やはり仕事柄、毎日いろんな県や観光地を訪ねてきました。その都度、朝日町と比べていたようです。と言いますのも、自然に囲まれ、しかも果物が豊富で季節の香りを持っている暖かな町、ふるさとを離れてつくづく実感しております。

私も、観光を目的としたサービス業に携わる者としまして、客観的な面から我が町を見つめた時に、こんなことが言えるのではないでしょうか。盤悌朝日国立公園朝日連峰という名勝を持ち、山形の母なる大河、最上川が町の中央部を悠悠と流れております。環境に恵まれ、素朴さを兼合わせた素晴らしい所です。しかも、他の観光地と肩を並べるほど、ふるさとの味というべき川魚料理、又は山の幸に出合うことができるのも楽しみの一つなのです。その事に輪を掛けて、今年の秋に二十一世紀の町作り「朝日自然観」がオープンすると聞き、大変期待して

ジャンボリーが春季を制覇

準決勝七回に〝ドラマ〟

野球大会

野球連盟主催の春季野球大会が五月二十一日と二十八日の両日、緑が丘公園グラウンドで開かれました。

試合は参加八チームのトーナメント戦で行われ、決勝戦は準決勝でサンダース（長岡寿春監督）の七回表の追い上げをかわしたジャンボリー（今井仁志監督）と、昨年優勝の本命アタックス（井沢喜美雄監督）を七回裏逆転サヨナラで敗った役場職労（熊谷貞則監督）の対決。終始ジャンボリーが試合をリード、九対一の大差で役場職労を下し優勝しました。

迫力あふれるプレーを展開

壮年パワー全開！

西町が念願の初優勝

壮年の部は四ノ沢チーム 春季ソフトボール大会

モーニングソフトとして親しまれている第9回春季ソフトボール大会が6月1日から開かれ、町内12チームが参加。4ブロックの早朝リーグ戦を経て6月11日の日曜日、緑が丘公園グラウンドで上位8チームによるトーナメント戦の決勝大会が行われました。決勝戦では西町チーム（鈴木正治監督）が接戦の末、12対11で元町の末吉良チームを敗り初優勝を飾りました。

また、これと並行に35歳以上の部の大会が参加3チームで行われ、白球を追って熱戦が展開されました。成績は次のとおりです。

■オープン①西町②末吉良（元町）③前田沢・西原■35歳以上①四ノ沢②前田沢③助ノ巻

ふるさとへの便り ▶68◀

おります。

仕事で山形に行く機会も多くなり、楽しみが一つふえました。今の私には、ささやかな夢があります。それは、大勢のお客さんをバスに乗せて、我が町に行くことです。

「りんごとワインの里」朝日町を、もっともっと多くの方々に知っていただくために。

今、家族がアブナイ
近ごろ出番のない落ち目の父親
頼りの息子はフリーターかぶれ
ツッパリ娘は停学処分中
意地と勝手とワガママが飛びかう
そんな家族をつなぐのは
太陽のような母ちゃんの明るさだった
不器用なやさしさとむきだしの愛が
すれ違い、ぶつかりあい物語はすすんでいく
日本中の家族におくる応援歌
ムラは3・3・7拍子

劇団 ふるさときゃらばん

とき	7月19日(水) PM6時開場
ところ	町民体育館
料金	大人 2,600円（当日 3,000円）
	中高生 2,100円（当日 2,100円）

ムラは3・3・7拍子

2年ぶりの朝日町公演です。
涙と笑いと感動をごいっしょに。

主催／朝日町連合青年団

当せん日八座

ほやほや新婚さん

大町／村山辰雄さん　幸美さん

新婚旅行先のハワイ・ハナウマ湾でのスナップ写真がお気に入りのお二人は、スキーとドライブが趣味の「やさしいけれど男らしい」辰雄くんと、茶道をたしなむ「おっとり」とした幸美さん。それぞれ身長が一七四・五㌢と一六三・五㌢の共にスラリとしたスタイリスト。「たつおさん」「さち」と呼び会う意気もぴったりの、一足早い夏を迎えたアツアツカップルです。

（広報委員　今井仁志）

＊おしあわせに

5月1日～5月31日届出

（婚姻届）

小原　栗木沢
菅井　克幸♥白田　幸
宇津野　寒河江市
今井　吉徳♥菊地　憲子
大暮山　本町
小松　光之♥柴田　玲子
松原　茨城県
長岡　利幸♥田中あけみ
舟渡　大江町
堀　秀一♥軽部ひとみ
大町　送橋
村山　辰雄♥渡邉　幸美
寒河江市　大谷四
菅野　勝秀♥東　百合子

＊すこやかに

（出生届）

区　名　出生児氏名　父親名
大谷二　清野　直人（なおと）　正弘
西町　加藤　英直（ひでなお）　信義
平　斎藤　結香（ゆか）　政俊
栗木沢　遠藤麻実子（まみこ）　喜由
宇津野　阿部千佳（ちか）　和寿
西船渡　海野博哉（ひろや）　康一
舟渡　五十嵐利佳（りか）　義信

＊やすらかに

（死亡届）

区　名　死亡者氏名　世帯主
白倉　堀亮太郎　助蔵
宇津野　加藤かねよ　正明
栄町　安孫子林兵衛　つや子
小原　佐藤正夫　正敏
松程　佐竹甲子男　正幸
松原　渡邉さだ　正壽

＊人口と世帯数

5月31日現在（対前月）

人口　一〇、八五一人（△五）
男　五、二八三人（△八）
女　五、四六八人（△三）
世帯数　二、五九七戸（△四）

善意のかご

「いもがわ温泉」へ

●東京都奥多摩町在住で、ご両親が朝日町出身、またご自身も宇津野に疎開されたことのある安藤精一さんより、単行本二百五十三冊を寄贈いただきました。センターのミニ文庫として活用させていただきます。

社会福祉協議会へ

●本町の佐藤昌俊さんより「恵まれない方のために役立ててください」と、現金二十万円をご寄付いただきました。

町の花・ヒメサユリの球根をいただきました

●このほど杉山の安藤俊一さんより、〝町の花〟ヒメサユリの球根をたくさんいただきました。町ではさっそくフラワーポットに植え付けして、可憐な花が一日も早く咲くよう、大事に育てています。

栽培がむずかしいというヒメサユリ

せせらぎ

▼三十二名の方々が各分野にわたるアイデア発表に熱弁をふるい、その迫力が聴衆に大きな感銘を与えた「ふるさと創生一億円・夜明し（世明し）フォーラム」。この企画にたずさわった一人として、翌朝のさわやかな初夏の夜明けが心地よかった。▼この「一億円」の資金は、「自ら考え、自ら行う地域づくり」に活用するもので、その企画にあたっては、そこに住む住民全体の力量が問われる事業費だと言える。▼町民が知恵をしぼり「むらおこし」のための施設づくりや奇抜なイベントを考えても、すぐに実現する保証はないが、情報発信基地（町の特色ある話題を情報として逆に全国へ送ろうという発想）をめざし、参加者は郷土愛に燃えて取り組んだ。▼これら提言を行政、議会がどのように受け止めて「一億円」の大英断を下すのか、町民はもとより日本各地から注目されている。（ほり）

広報あさひ　391号　発行/山形県朝日町　編集/朝日町広報委員会　平成元年6月15日発行　印刷/山形市　豊田太印刷所